

上田市教育委員会 2月定例会会議録

1 日 時

平成28年2月15日（月） 午後3時3分から午後4時まで

2 場 所

上田駅前ビルパレオ5階 上田市教育委員会 第一会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	小林 一雄
教育長職務代理者	城下 敦子
委 員	山崎 順子
委 員	寺島 滋
委 員	北沢 秀雄

○ 説 明 員

西入教育次長、浪方教育参事、倉島教育総務課長、小井戸学校教育課長、瀬間生涯学習課長、宮崎人権同和教育政策幹、浅野文化振興課長、滝沢スポーツ推進課長、柳沢真田地域教育事務所長、石井丸子地域教育事務所長、清住武石地域教育事務所長、池内丸子学校給食センター所長、神林中央公民館長、樋口上野が丘公民館長、倉澤博物館長

1 あいさつ

2 〈協議事項〉

(1) 高校生を対象とした給付型奨学金制度の創設に伴う関係例規の改正について

(教育総務課)

○ 資料1により倉島教育総務課長説明(要旨)

奨学金制度については、これまで上田、丸子、真田それぞれの地域で篤志家のみなさんから寄附をいただき異なったやり方で運用してきたが、ようやくまとまり新たな制度を構築できた。制度の趣旨は、経済的理由によって高等学校等における就学が困難な者の保護者等に対して経済的な負担を軽減する、教育の機会均等を図っていくという趣旨である。これまで丸子、真田地域では大学生まで対象としていたが、日本学生支援機構や、民間企業でだいぶ奨学制度が充実してきたことから、新しい制度は、上田市としては、高校生に絞っていきたいということである。対象は、世帯の収入状況が生活保護法に定める要保護者に準じる程度に困窮している者。ただし、長野県高校生等奨学給付金または長野県私立高等学校等奨学給付金の受給対象者は除く。給付額は、一人当たり年額59,500円である。また、新たに上田市奨学基金を設置し、旧4市町村合わせた基金を新たにつくり奨学制度を行っていく。経過措置として、今年度までに奨学金を貸与された奨学生は、正規の修業期間が終わるまで貸与を実施する。施行日は、平成28年4月1日からである。

○ 質疑

北沢委員

趣旨に、予算の範囲内で奨学金を支給とあるが、どの程度を想定しているのか。

倉島教育総務課長

実際のところは、広報で募集してみないとわからないところもあるが、小中学校の就学援助の例から、それから現在の高校生の家庭の状況から、約100人ぐらい対象になってくるとみている。ここには予算の範囲内としてあるが、対象になったご家庭については、もし予算が不足すれば補正予算を要求していく。対象になれば全員に支給していきたい。

寺島委員

基金はいずれ不足する。不足したら最終的には税金投入か。

倉島教育総務課長

今の基金が約1億4千万円ほどある。想定どおり対象者が100人ぐらいであるとすれば大体20年ぐらいは今の基金でまかなえる。今回、任意団体の育英会ではなく上田市を事業主体としているが、その理由のひとつは、市が事業主体であれば、企業が寄附した場合に税金の面で企業にメリットが出てくる。そうすれば寄附もしやすくなるという面もあるということで、上田市を事業主体にした。また、運用方々、寄附のほうも呼びかけていき、それが枯渇すれば当然税金投入をしていく考えである。

寺島委員

ふるさと寄附金も使っていくのか。

倉島教育総務課長

ふるさと寄附金についてはメニューの中に学校に関することという項目があるが、どちらかというとかかなり大きい枠組みのメニューになる。したがって、奨学金をそこに入れられるかどうかは難しい。また別個で呼びかけて直接入れてもらうような形がいいかと思う。

城下委員

給付型ということであるが、長野県の奨学給付金、または私立の奨学給付金の受給者を除くとなっているが、それ以外の奨学金であれば貸与でも給付でも併用はいいのか。

倉島教育総務課長

高校生の場合、いろんな例がある。学校、企業によっては本当によく頑張っている学生に対しては特別奨学金を出すという企業もある。そういうことについてまで差し引いてしまうのはやはり、せっかく頑張っているのにそれがだめになってしまうということから、県の奨学給付金以外のものについては併用可とする考えである。

山崎委員

給付額の年額が決まっている。これは申請は1年に1回、高校生なので最高3回までということか。

倉島教育総務課長

県は1回申請をして認定されれば1年に1回給付という形である。上田市では2回に分けて給付をしたいと考えている。回数でいえば3年間で6回であるが、長野高専のような学校であっても期間が3年までとあるので普通高校と同じように、また留年されても3年までと考えている。

山崎委員

真田にはいろんな基金があるが、統一できない理由として、寄附者のお気持ちというのがあるとのことだが、そのあたりの合意はどのようなようだったのか。

倉島教育総務課長

真田の堀内猪之助奨学基金というのがある。この方からいただいた寄附が1億円であり、この方は真田地域の子どもの奨学金にあててくれと特定をして寄附をいただいた経過がある。それ以外への使い道はなかなか難しいということがひとつある。したがって、堀内さんとはまだ話しがついていないので当面、今までどおり別個の形で運用し、現行制度で決定した方について給付していくというところまでご了解いただいている。この基金がないと、現在、決定している方に対して給付する手立てがない。その二つの理由で残していく。

○ 全委員 了承

(2) 学校教育関係市長表彰について(学校教育課)

○ 資料1-1により小井戸学校教育課長説明(要旨)

「市長表彰制度」に基づき、優秀な成績を収めた方に「市長表彰」を授与し、その功績を顕彰したい。候補者は菅平中学校3年の小山慧さんで、平成27年度全日本中学校体育大会第53回全国中学校スキー大会(アルペン競技)男子大回転優勝、男子回転優勝で2種目に

において優勝されたことは大変名誉であり、市の知名度やイメージアップに貢献するものである。

○ 全委員 了承

(3) 上田市指定文化財指定申請について（文化振興課）

○ 資料2により浅野文化振興課長説明（要旨）

上田市文化財保護条例第4条第3項の規定により、指定申請のあった文化財について、上田市文化財保護審議会に諮問する。ご承認いただければ3月17日に開かれる文化財保護審議会にかけ、答申をいただくという段取りで進めたい。

- ・所有者 国立大学法人信州大学
- ・申請者 国立大学法人信州大学長 濱田州博氏
- ・管理者 国立大学法人信州大学繊維学部長 下坂誠氏
- ・所在地 上田市常田三丁目512番地1 信州大学繊維学部
- ・申請のあった文化財 信州大学繊維学部旧千曲会館

○ 全委員 了承

3 〈報告事項〉

(1) 平成27年度 教育委員会の主な政策課題進捗状況（教育総務課）

○ 資料3により倉島教育総務課長説明（要旨）

昨年7月に27年度について教育委員会ではこのようなことに力をいれて主な政策課題として見据えていくということを報告させていただいた。年度末も近づき、現在のそれぞれの状況について報告させていただきたい。

まず、学校給食の運営方針について委員のみなさんにも精力的に視察等していただき議論していただいて今後の学校給食運営方針を策定できた。取組状況として市内及び市外給食施設の視察、教育委員会での検討、市政経営会議、総合教育会議で検討、関係地区へ説明などを行った。今後の取組予定は、住民説明会や具体的な庁内検討に入る。

次に教育支援プランの進捗検証、見える化の成果として「第1期上田市教育支援プラン」の検証及び「第2期上田市教育支援プラン」の策定である。取組状況としては、総合教育会議で検討、教育委員会での検討、上田市校長会からの意見聴取であり、今後の取組予定としてはさらに教育委員会それから校長会等で審議いただき3月10日の総合教育会議で決定してまいりたい。決定後は、3月15日の教育委員会で報告し、校長会、広報などで周知していく。

次に、少子化による学校の小規模化への対応である。市内の小・中学校の学校規模等の現況を把握・整理した段階である。現況の学校の規模、学級数、あるいは学校数、児童生徒数のこれらの推移、それから将来設計、小規模化のメリット・デメリットなどを整理した。今後の取組としては今後の進め方を検討し、検討組織の設置をしていきたい。

次に、スポーツ施設整備基本構想策定である。成果としてスポーツ施設整備基本構想（検討案）を作成し、関係団体へ説明した。取組状況は、担当者会議での検討、スポーツ関係団体への説明、庁内関係部局との協議を行った。今後の取組予定として、公共施設マネジメント基本方針との整合性を図ることと、構想に基づく整備計画の作成である。

次に、信州型コミュニティスクールの推進で成果として信州型コミュニティスクールなど

の要件を満たす学校数は18校であった。取組状況としては事務局を含めて関係者の勉強会、環境づくりなどを進めてきた。今後の取組予定であるが来年度も養成講座を開催する予定と今後の進め方を検討、導入前後の学校への支援である。

次に、これからの図書館のあり方で、市内図書館の現況と課題を整理した。取組状況として、「第2次上田市図書館基本構想」事務局案の検討をし、「上田市子ども読書活動推進計画」の今後の進め方の検討をした。また、視察研修、社会教育委員の視察研修を行った。今後の取組予定は第2次上田市図書館基本構想の事務局案を作成していきたい。

最後に、真田氏、上田城紹介コンテンツ制作ということで、アプリ「VR上田城」を制作した。1月4日から本稼動ということでさらに今後もチラシ、ポスターなどでPRしていきたい。

○ 質疑

城下委員

スポーツ施設整備基本構想（検討案）は、私たちには見せていただいているのか。

滝沢スポーツ推進課長

8月の協議会のときにご説明させていただいた。そのあとスポーツ関係団体に説明したのも準じた形のものである。

城下委員

これまでの成果・取組として、何月何日に何々を行ったと記載してあるが、それはその都度私たちのほうへは報告されているのか。

小林教育長

大事なことは報告している。具体的にはどの部分のことか。

城下委員

コミュニティスクールのところ、コーディネーターを講師とした現地研修や講座へ参加はかなりの回数であるが、これはどのような状況だったのか報告いただいていたか。

小井戸学校教育課長

対象者、関係者用の講習会だったので私どもも一緒に見させていただいたことはあるが、これは内部的なものであり、特段ご案内はしなかったものである。

小林教育長

これはかなり細かな、参加者が限られたものである。教育委員会がというよりはそれぞれが参加したものを全部ここに列記している。

山崎委員

図書館では視察研修に行かれているが、視察先は何か特徴のある図書館だったのか。

瀬間生涯学習課長

図書館協議会の視察研修、社会教育委員の視察研修で県外の図書館を視察した。神奈川県海老名市は指定管理されている図書館ということで、どういう経緯で導入したのか、トッ

プの市長の考え方によってどのような形で進められたかを含めて視察研修をしてきた。また、同じ市でありながらも直営と指定管理の2つに分かれた、いくつも持っているような図書館、たとえば、中央機能の調整権を持つような核となる図書館は直営にし、あとは地域館については指定管理、民営化のような形でやっているところもある。社会教育委員の視察のところで宇都宮市についてもそうである。中央図書館は直営でほかの館は委託、指定管理という形で抱き合わせでやっている。基本的なものは調整館のほうでしっかりと調整していくような形である。

小林教育長

立川市はどうだったか。

瀬間生涯学習課長

5館だと思うが、やはり直営館と指定管理と分かれている。

小林教育長

そういう観点でこれから計画を立てるということである。

寺島委員

図書館基本構想は現在、事務局案の検討段階で、現況と課題を整理したということだが、大枠でいいので途中段階のところで現況と課題を定例会などで説明してほしい。本策定されて初めて教育委員のところに示されるというのはどうなのか。ただ承認すればいいということではなく途中でどのようになっているのか知らせてほしい。

小林教育長

図書館基本構想は今、どんな状況か。

瀬間生涯学習課長

事務局段階で検討している。いずれにしても第2次総合計画が策定されたのでそれを受け、第2次の生涯学習基本構想を今、策定中である。その中で位置付けをし、そのあと、素案等を提出した際に社会教育委員のほうへ意見を求めるような形になる。それから教育委員のほうへお諮りしていくような形で報告していく。

小林教育長

適当なときにまた協議会などでご報告いただければと思う。

○ 全委員 了承

(2) 学校教育関係寄附の状況（学校教育課）

○ 資料4により小井戸学校教育課長説明（要旨）

2名の県外の方からふるさと寄附金をいただいた。これで27年度累計は63件で金額は、1,968,235円である。

○ 全委員 了承

(3) 文化振興関係寄附の状況（文化振興課）

- 資料5により浅野文化振興課長説明（要旨）

24名の県外の方からと1名の県内在住の方からふるさと寄附金をいただいた。これで27年度累計は128件で金額は、2,278,969円である。

- 全委員 了承

(4) スポーツ関係市長・教育長表敬訪問者報告（スポーツ推進課）

- 資料6により滝沢スポーツ推進課長説明（要旨）

平成27年度全日本卓球選手権大会に出場した上田第四中学校2年の近藤怜央さんが1月7日（木）に市長表敬訪問された。また、菅平中学校と上田染谷丘高等学校、上田千曲高等学校の方々が2月に開催される全国スキー大会に出場するため1月25日（月）に市長、教育長表敬訪問された。記念品としてペットボトルホルダー、ピンパッジ、ネックウォーマーなどが贈られた。

- 全委員 了承

(5) 行事共催等申請状況について（学校教育課・文化振興課・スポーツ推進課）

- 全委員 了承

4 〈その他〉

(1) 神林中央公民館長より公民館だより説明

- 全委員 了承

閉会